

第 101 回市民雑学講座報告

演題：西郷隆盛の実像

講師：落合 弘樹氏・早稲田大学エクステンション八丁堀校講師

明治大学文学部教授

日時：2018 年 4 月 15 日（日曜日）15:30-17:30（開場 15:00）

会場：東村山駅西口ワズタワー2 階

サンパルネ・コンベンションホール

明治維新から 150 年にあたる今年、NHK 大河ドラマ「西郷どん」が現在放映中ということもあってか、今回の、第 101 回市民雑学講座「西郷隆盛の実像」は、講座の開始前からワズタワー2 階サンパルネコンベンションホール前には長蛇の列でした。

今回の雑学講座に参加した会員や市民は 150 名を超える大盛況！そんな熱気のなか、講座は大内会長の挨拶から始まり、黒田さんによる講師紹介、そして早稲田大学エクステンション八丁堀校講師であり、明治大学文学部教授の落合弘樹氏を講師にお招きし、明治維新の立役者西郷隆盛の真の姿を語って頂きました。

放映中の NHK 大河ドラマ「西郷どん」では勇気と実行力で時代を切り開いた「愛に溢れたリーダー」として描かれているものの落合講師は「製作者の意図の下に西郷隆盛を描いており、必ずしも実像とは異なるフィクションである」と言います。

隆盛の生涯の師・斉彬との出会いと別れ。仲間との友情と反目。多感な青年期を経て、三度の結婚、二度の島流し…。

極貧の下級武士だった素朴な男が、南国奄美で愛に目覚め、盟友と出会い、揺るぎなき「革命家」へと覚醒し、やがて明治維新を成し遂げていくという西郷隆盛の人生は、日本の歴史上の人物の中でも非常に人気があります。幕末か



ら明治の初頭と、日本の“激動の時代”と共に、彼の生涯そのものが人を惹きつけて止まない“激動の人生”だったからでしょう。

ズケズケと物を言う性格で、藩中での評判も悪く10年ほどまったく出世とは縁のなかった西郷が、「こういうタイプを使いこなしてこそ」という名君・島津齊彬と出会うことで、その後の人生を大きく変えることとなりました。

齊彬との出会いがなければ、西郷はそのまま“出世しない田舎の武士”で終わっていたと言えます。

落合講師によれば、西郷隆盛は、幕末から明治維新への歴史の流れの中で、王政復古、廃藩置県にかかわる大きな功績などの足跡を残した一方で、島津齊彬を守り切れなかったこと、安政の大獄での失敗、奄美大島への隔離（流謫）、明治六年の政変に敗れたこと、そして西南戦争で亡くなったことと、5つの敗北を喫しています。しかし5回負けても復活する、それこそが西郷の魅力であり長く語り継がれる理由だそうです。

講座は、幕末から明治維新後までの歴史の流れを多岐に渡る資料を用意され、克明に語っていただきました。熱心にメモをとる人の姿があちらこちらで見受けられました。

以下落合講師資料より

1、名君島津齊彬の寵臣

出生（1828年）・・・下加治屋町

郡方書役助（1844年）・・・農政担当⇒出世なき10年

島津齊彬の藩主就任（1851年）

洋式技術の導入・・・反射炉・集成館・昇平丸・薩摩切子

西郷の江戸出府帯同と庭方役拝命（1854年）「彼を使ふ者、私ならではあるまじく」



将軍家定と篤姫の婚姻（1856年）



将軍継嗣問題での奔走・・・南紀派と一橋派

堀田老中の上洛と通商条約勅許奏請（1858年2月）⇒孝明天皇の拒絶

井伊直弼の大老就任（4月23日）⇒条約調印と将軍継嗣決定

斉彬急死（7月16日）「船を失い唯湖東にたたずみ候」（月照宛8月11日）

2、大島流謫と沖永良部遠島

安政の大獄開始（9月）・・・幕吏の追及（彦根襲撃計画）

錦江湾投海と蘇生（11月16日）一月照を匿い切れず

奄美大島への隔離（1859～1862年）



愛加那との結婚

島津久光の卒兵上京計画（1862年）・・・西郷の帰国と上京反対

西郷の先発（3月3日）と無断上京（3月29日）→久光の激怒・・・捕縛

沖永良部流罪⇒敬天愛人の境地

3、禁門の変と薩長の提携

下関外国船砲撃（1863年5月）と八月十八日政変・・・長州藩・尊攘激派の京都放逐

西郷の赦免と上洛（1864年3月14日）

池田屋騒動（6月5日）・・・新選組が京都に再結集し挙兵計画中の尊攘派志士を襲撃

禁門の変（7月19日）・・・対立しつつあった慶喜と薩摩・越前は、尊攘激派の逆襲に団結

長州征討・・・征長軍参謀西郷隆盛⇒勝海舟との出会い（9月15日）

勝の忠告・・・幕府機能が硬直化

⇒有志大名の団結に期待



長州藩の謝罪恭順と征長軍解兵（12月27日）
 高杉晋作の功山寺挙兵（12月16日）⇒長州再征の布告（1865年4月）
 薩長提携論・・・中岡慎太郎と五卿従士の奔走
 龍馬の仲介・・・薩摩藩名義の外国製武器購入と下関移送＝亀山社中
 毛利敬親父子から島津久光・忠義への親書（9月8日）
 長州再征勅許（9月21日）
 「朝廷是かぎり」、「非義の勅命は勅命にあらず」（大久保）
 薩長実力者会談（京都：小松帯刀御花畑別邸）
 六か条盟約（1866年1月22日）
 今日より両藩が皇国のために皇威回復を目途に尽力すべき事

薩長実力者会議（京都小松帯刀邸）

薩摩藩・・・小松・西郷・大久保・他二人
 長州藩・・・木戸・品川・・・他二人



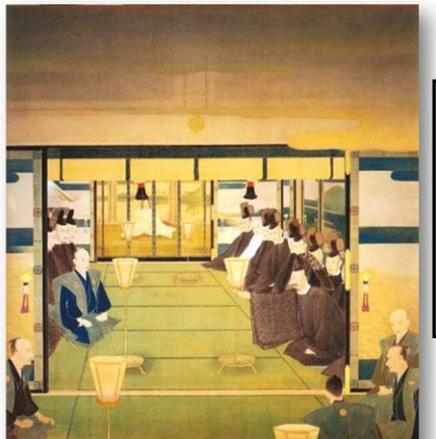
- ▶ 龍馬の京都到着（1月20日）
- ▶ 幕府上奏案勅許（1月22日）

長州再征と幕府の敗北

4、王政復古と倒幕

四侯会議（1867年5月）久光・春嶽・容堂・伊達宗城VS慶喜⇒決裂
 薩長両藩は王政復古を決意（武力行使も覚悟）
 将軍職廃止と慶喜排除・朝廷の大改革（天皇と公家の伝統的關係を整理）
 土佐藩の大政奉還論＝慶喜に政權（最高意思決定）と将軍職を返上するよう要求
 薩土盟約（6月22日）王政復古と将軍職廃止を「大条理」＝共同出兵
 大政奉還（10月14日）
 王政復古（12月9日）
 摂政関白と将軍職を廃止（旧体制の廃絶）、総裁・議定・参与を設置＝仮政府

小御所会議・・・慶喜に辞官納地を要求（政界から放逐）



「短刀1つで事足りる」

西郷隆盛

徳川慶喜の反撃

外国公使を大坂城に集めて外交権を認めさせる（16日）

薩摩の関東攪乱工作→庄内藩兵の薩摩藩高輪屋敷焼き討ち（25日）

鳥羽伏見の戦い（1868年1月3日夕刻）

慶喜の遁走（6日）・・・政局の主導権は公議政体派諸侯から討幕派公家と藩士へ
勝と西郷の会見（3月14日）⇒江戸の無血開城（4月11日）

「おれがことに感心したのは、西郷がおれに対して、幕府の重臣たるだけの敬礼を失はず、談判の時にも、始終座を正して手を膝の上に載せ、少しも戦勝の威光でもって敗軍の将を軽蔑するといふやうな風が見えなかった事だ。」（氷川清話）

上野戦争（5月15日） 彰義隊討伐

西郷の再出撃（8月10日柏崎着）・・・庄内入り（9月27日）⇒寛大な処分を指示

5. 明治政府の成立と西郷

版籍奉還の上表提出（明治2年1月20日）

凱旋兵の藩政改革運動・・・川村・野津⇒門閥排除＝島津久治失脚

西郷の鹿児島藩参政就任（2月）

新政府への失望

横山安武死諫事件（明治3年7月）

岩倉勅使の来鹿

親兵創設と上京（4月）

西郷の参議就任（6月）

廃藩断行（7月14日）…維新三傑の結束 久光の激怒→錦江湾の花火

維新三傑（西郷、大久保、木戸）



一番人気は西郷隆盛

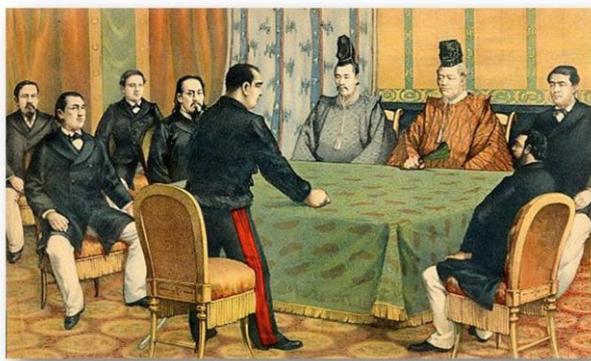
岩倉遣外使節団派遣と留守政府の改革 三大改革・・・地租改正・徴兵令・学制
秩禄処分への着手

朝鮮外交の膠着と「無法の国」告示（1873年6月）

西郷隆盛の使節派遣論（1873年8月）

「内乱を冀う心を外に移して国を興すの遠略」⇒閣議の「内決」

閣議の紛糾（10月14日）



遣使論

西郷隆盛
板垣退助
後藤象二郎
副島種臣
江藤新平

延期論

大久保利通
岩倉具視
木戸孝允
伊藤博文
黒田清隆

対立

辞職

遣使決定（15日）・・・三條実美太政大臣の急病と岩倉右大臣の太政大臣代行

岩倉の上奏（23日）・・・閣議決定と反対に遣使反対の上奏を行う

西郷の下野＝二度の閣議決定が覆る⇒参議辞職

6、西南戦争

私学校創設（7年6月）

旧薩摩藩の軍勢力は、武器工場や弾薬庫とともに、組織や教育の面でも温存
私学校の県政掌握・・・行政から他県出身者を排除。戸長を独占
士族反乱激発と西郷の静観・・・敬神党、秋月の乱、萩の乱、思案橋事件

生徒の統制に苦慮する私学校幹部＝暴発を危惧

政府の私学校解体策と薩軍挙兵

①武器・弾薬の接收（明治10年1月）⇒生徒の弾薬庫襲撃（1月29日）

②密偵派遣・・・中原尚雄の西郷暗殺計画「自供」

私学校の幹部会議（2月5日）⇒出兵決定「おいの身体は差し上げもそ」

西郷の県令大山綱良への通告（2月7日）「今般政府へ尋問の筋これあり」

薩軍行動開始（2月15日）・・・七大隊、16,000名 50年ぶりの大雪

熊本城強襲（22日）

政府軍の田原坂攻略着手（3月4日）

衝背軍の日奈久上陸（3月19日）・・・熊本城解囲（4月14日）

城東会戦（4月20日）

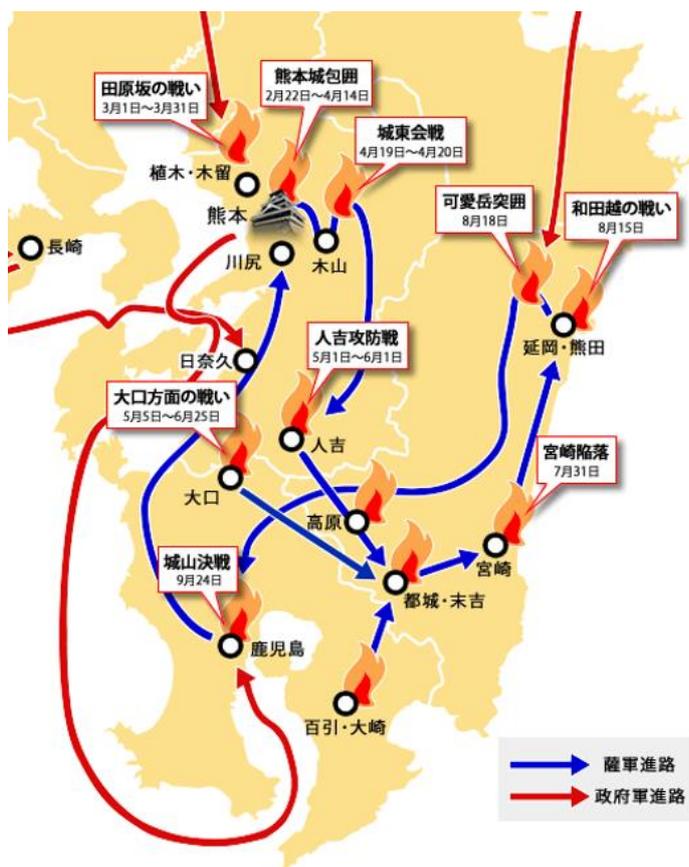
政府軍の鹿児島占領（4月27日）

人吉陥落（6月1日）・・・敗走と投降

和田越決戦（8月15日）⇒西郷、ようやく陣頭に

政府軍の重包囲と西郷の全軍解散命令（8月16日）⇒可愛岳突破（17日未明）

鹿児島帰還（9月1日）⇒城山総攻撃（9月24日）



なお、落合講師の専門は幕末維新史、明治維新史学会事務局長を務め、早稲田大学 エクステンションにてこの春、「西郷隆盛の実像」の講座を5回にわたり担当され、秋には「西郷隆盛とその時代」の講座も10回にわたり担当されます。

今年3月BS テレビが放映した片岡愛之助の歴史捜査「西南戦争」の番組に出演され解説をされました。



<落合弘樹講師の主な略歴>

1962 年生まれ

1991 年 中央大学大学院文学研究科博士後期課退学、

2001 年 京都大学文学部にて博士号（文学）授与

2009 年 京都大学人文科学助手等を経て明治大学文学部教授就任専門は幕末・維新史

◎著書

『明治国家と士族』（吉川弘文館）

『幕末維新の個性4 西郷隆盛と士族』（吉川弘文館）

『敗者の日本史18 西南戦争と西郷隆盛』（吉川弘文館）

『秩禄処分～明治維新と武家の解体』（講談社学術文庫）等

◎来場者数 154 名（市民：114 名、会員 40 名）

会員・ご家族出席者 以下 40 名（敬称略）

青山 稔、阿部 茂、荒巻 優之、安藤 利雄、石井 真子、石井 光典、市川 彰彦、出田 邦博、伊吹 史郎、江藤 昌明、大内 一男、岡田 一郎、風間 和夫、加藤 正俊、上町 弓子、倉田 哲也、紅松 容子、黒田 祐司、小亀 輝雄、小菅 宏、清水 聡、高瀬 朋美、高橋 鶴次郎、高橋 文子、滝川 桜子、滝来 洋二、戸田 志郎、富澤 文雄、富澤夫人、中村 靖、南湖 修一、野中 昭夫、野村 茂樹、馬場 可修、藤井 省、三宅 良太、森本 吏、安田 忠治、山本 岩男、吉田 勝

（写真等提供：落合弘樹講師、記：上町 弓子、写真挿入：富澤 文雄、藤井 省）